

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	22-408	手稲溪仁会病院 白坂知彦 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター 松下幸生
題名（原題／訳）		
<p>The Impact of Alcohol and Other Substance Use Disorders on Mortality in Patients With Eating Disorders: A Nationwide Register-Based Retrospective Cohort Study</p> <p>摂食障害患者におけるアルコールおよびその他の物質使用障害が死亡率に与える影響。 全国規模の登録に基づくレトロスペクティブ・コホート研究</p>		
執筆者		
Angelina Isabella Mellentin, Anna Mejldal, Maria Mercedes Guala, René Klinkby Støving, Lene Stryhn Eriksen, Elsebeth Stenager, Lotte Skøt		
掲載誌		
Am J Psychiatry. 2022 Jan;179(1):46-57. doi: 10.1176/appi.ajp.2021.21030274.		
キーワード	PMID	
摂食障害、物質関連および依存性の障害	34974750	
要 旨		
<p>目的 摂食障害の全領域において、異なる種類の物質使用障害（SUD）が過剰死亡率に寄与していることに関する研究は不足している。著者らは、神経性食欲不振症、神経性過食症、および特定不能の摂食障害におけるアルコール使用障害およびその他の SUD と死亡率との関連について、マッチさせた対照群と比較して評価した。</p> <p>方法 デンマークの全国規模のレジスターを用いたレトロスペクティブ・コホート研究を実施した。摂食障害患者 20,759 名とマッチさせた対照者 83,036 名を対象とした。生涯 SUD（アルコール、大麻、ハードドラッグの乱用または依存）の診断の有無にかかわらず、摂食障害患者と対照者の間で全死因死亡リスクを比較するためにハザード比を算出した。</p> <p>結果 各タイプの摂食障害患者において、アルコールおよび／または大麻を乱用している患者では、SUD のない対照群と比較して高い全死亡リスクが観察された（神経性食欲不振症、神経性過食症、特定不能の摂食障害患者の修正ハザード比はそれぞれ、11.28 [95% CI=7.01, 18.16], 5.86 [95% CI=3.37, 10.1], および 10.86 [95%CI=4.1], とされる）。86 [95% CI=6.74, 17.50]）、またはハードドラッグ単独またはアルコールおよび／または大麻との併用（調整済みハザード比はそれぞれ、22.34 [95% CI=15.13, 33.00], 11.43 [95% CI=7.14, 18.28]）。28], および 15.53 [95%CI=10.15, 23.78]）、SUD のない人（調整済みハザード比はそれぞれ、3.21 [95%CI=2.43, 4.23], 1.24 [95%CI=0.88, 1.77], 4.75 [95% CI=3.57, 6.31]）よりも優れていた。SUD を有する対照被験者も、SUD を有する摂食障害患者よりもはるかに少ない程度ではあるが、SUD を有さない対照被験者と比較して全死亡のリスクの上昇を示した。</p> <p>結論 SUDs は摂食障害患者における超過死亡率に相加的な影響を及ぼす。したがって、この患者群における SUD の予防と治療は、死亡率を低下させるために必須である。</p>		